

みどころ

①二ノ丸の見事な算木積み

表面を美しく加工した切石で積まれている。角を「ビシャン」という工具で細かく整え、筋を通して。算木積みとは隅石(すみいし)を大きめの細長い石で長辺と短辺を互い違いに積み上げる方法で大変強固である。



②大手道と土塙跡



③鐘ノ丸の石垣

(切込み接ぎ布積み)



④松ノ丸から鐘ノ丸への梯形と鏡石



⑤本丸の武者返し

反りをつけた石垣は武者返し又は扇の勾配と言われ、石垣全体に反りをつけるのではなく、石垣上部で勾配を強くしていくことで反りを形成。



⑥浅野期と水野期の石垣



⑦水ノ手

熊野川に面し、港跡がある。洪水にそなえ6mもの高さの石垣が築かれている。また20棟の建物跡が発見されており、備長炭を専売していた領主水野氏の炭納屋跡と想定されている。



⑧石垣の刻印

○に点や△に横一、大の文字など刻印が見られる。

*刻印=石垣の石材に刻まれた符号



新宮城跡散策マップ

北
北
北

新宮城跡(丹鶴城公園)案内図

権現山(千穂ヶ峰)↑

西

神倉山



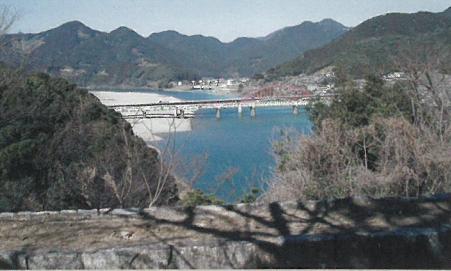
新宮市街を一望

王子ヶ浜

熊野灘

東

9 本丸から熊野川を望む



からめて
10 本丸の搦手

搦手とは裏口のこと、反対に表口を大手という。



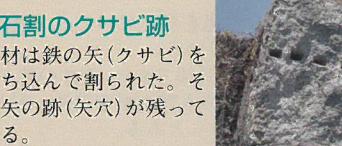
11 丹鶴姫の碑

12世紀に丹鶴姫がここ丹鶴山に東仙寺を建立した。築城の際、寺は移された。



13 本丸から熊野灘を望む

城からは熊野灘が一望でき、海上を監視することができた。また、船からは天守が熊野灘航行の目印になつたという。新宮城の別名が「沖見城」と呼ばれたことも海上交通に対する機能を物語っている。



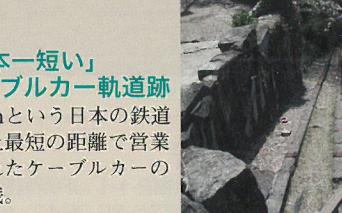
14 石割のクサビ跡

石材は鉄の矢(クサビ)を打ち込んで割られた。その矢の跡(矢穴)が残っている。



15 川上不白の顕彰碑

川上不白は1719年新宮水野氏の家の生まれ。16歳で京都の表千家如心斎のもとに入門。32歳の時、江戸に出て「江戸表千家不白流」の祖となった。後に、不白顕彰会により建てられた石碑には、「不白が好んで使ったといふ清風生蓬萊」の文字が刻まれている。



16 日本一短い

ケーブルカー軌道跡

72mという日本の鉄道史上最短の距離で営業されたケーブルカーの名残。

石垣の種類

石材の加工により野面積み・打込み接ぎ・切込み接ぎに区別される。

■野面積み(のづらみ)

自然石をそのまま積み上げた石垣。

城郭の石垣としては、比較的初期の時代(戦国～安土桃山時代)に積まれたものが多い。

■切込み接ぎ(きりこみはぎ)

完全に整えた石を隙間なく積み上げる方法。基本的に石が密着しているので排水口が設けられる。

江戸時代初期(元和期1615年以降)に多用されるようになった。

■打込み接ぎ(うちこみはぎ)

石の表面を加工し、隙間を少なく

して積み上げ、石と石の隙間に細かい石を詰めている。関ヶ原の合戦(1600年)以降用いられた。

■野面積み(のづらみ)

石材を一層づつ横に並べたもので、横方向の目地が通る。

■切込み接ぎ(きりこみはぎ)

完全に整えた石を隙間なく積み上げる方法。基本的に石が密着しているので排水口が設けられる。

江戸時代初期(元和期1615年以降)に多用されるようになった。

■打込み接ぎ(うちこみはぎ)

石の表面を加工し、隙間を少なく

石材の積み方により布積みと乱積みに区別される。

■布積み(ぬのづみ)

石材を一層づつ横に並べたもので、横方向の目地が通る。

■乱積み(らんづみ)

横方向に目地が通らない積み方。

■山城(やまじろ)

本丸・二ノ丸・三ノ丸など全ての郭を山の中に並べた城。

■平山城(ひらやまじろ)

本丸・二ノ丸・三ノ丸などを高台に、二ノ丸を平地に配した「平山城(ひらやまじろ)」である。

お城の種類

■平山城(ひらやまじろ)

低い山や丘に本丸などの中心的郭群を並べ周囲の平地に外郭の郭群を並べた城。

■平城(ひらじろ)

全ての郭を平地に並べた城。

■山城(やまじろ)

本丸・二ノ丸・三ノ丸などを高台に、二ノ丸を平地に配した「平山城(ひらやまじろ)」である。

郭の名称と働き

城の中心は本丸で、二ノ丸・三ノ丸と続く。北ノ丸や西ノ丸は本丸からの方角を示す。

水ノ手郭(井戸郭・清水郭など)は籠城時の飲料水を確保する郭。

出丸は城から突き出して設けられ、物見と前線基地の役割。

鐘ノ丸は合団の鐘や太鼓を打つ場所。